

戦後70年 平和を心に刻む

8月の「戦争を語り継ぐ会」では、日本軍「慰安婦」とされた方からお話をうかがいたいと思っていましたが、高齢等のため参加が困難となり、国際的に「慰安婦」の裁判・支援に深く関わってきた梁澄子さんに「語り部」をお願いしました。

日本軍「慰安婦」とされた女性たち

梁 澄子

戦後半世紀を経て、1990年代初めに私たちの前に立ち現れた日本軍「慰安婦」問題。その後、四半世紀が過ぎてもお解決されていない現状で、問題は複雑化しています。一方に歴史修正主義者たちによる事実のねじ曲げがあり、もう一方にはこの問題を日韓の政治問題とだけ捉える見方も強まっています。

しかし、この間、被害者の近くで問題解決のために運動してきた者の立場から見れば、この問題は、被害者の問題であり、被害者の要求をどう実現するかという問題です。

そのような趣旨から、アジア各地の女性たちがどのような制度の下で、どのような被害に遭ったのか、そして戦後、被害回復がなされないまま放置されたためにどのような被害が続いたのか、また、日本政府が何をしてきたのか、してこなかったのか、何をすべきなのかについてお話すると共に、政府の対応とは別に、自ら名乗り出てたたかう過程で女性たちが獲得した被害回復の状況についてもお話します。

「10周年」の感想から

- 奥平さんと、その志を受けつぐ会の発起人の方々のお話、感銘を受けました。勉強になりました。紙芝居も良かったです。

板橋で九条の会の活動をしています。ニュースの発行、街頭宣伝もやっていますが、何とかオール板橋のつどいや取り組みをやりたくて頑張っています。

「国の交戦権はこれを認めない」ストップ！戦争法

す。(千代田 小林)

- 九条の会さかど「10周年」、おめでとうございます。奥平さんのビデオ、わかりやすく良かったです。
- 奥平さんの人柄や憲法学者としての活動について、一緒に学んだり活動をともに取り組んだ方々からお話がありました。

呼びかけ人として、他の呼びかけ人の大江さんや加藤さんに比べると、奥平さんのことは知らない面が多く、今回のビデオを通じて知ることができました。

講演会では「静かな口調」で語られた奥平さんが気にかけておられた「語ること」の大切さをしっかりと受けとめて、勝つまで語り続けて行くつもりです。(石川)

- 何としても憲法を守らなければ、特に九条を守らないと！

大声を出して守っていききたい。早くアベを倒さないといけない！

- 九条は宝

10周年のつどいでのビデオ、奥平さんはじめ皆様のメッセージには心打たれました。また紙芝居でも戦時中の场景があり、見ごたえも十分でした。

益々切迫した世の中、日々少しでも頑張らなければと念じています。本日はありがとうございました。(西坂戸 浅井時子)



戦後70年 平和を心に刻む

2015年ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

8月1日(土)～2日(日) 坂戸市文化施設オルモ2階
原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会 (282-0495 池辺)

2015年 坂戸市平和のための戦争展

8月11日(火)～12日(水)9時～17時 坂戸市役所ロビー
坂戸平和のための戦争展実行委員会 (282-1336 塘永)

戦争を語り継ぐ 子や孫の時代へ

8月23日(日)13時30分～16時 坂戸駅前集会施設
日本軍「慰安婦」とされた女性たち(梁澄子さん)
へいわのうた、など 九条の会さかど (283-4723 栗原)

『水爆実験60年の真実』を観て (その4)

末広町 石川裕一

国民より国益優先

1954年のビキニ環礁におけるアメリカの水爆実験、降り注ぐ「死の灰」を浴びながらマグロ漁船の操業を続けていた船員たちは、その後ガンや白血病で次々に亡くなりました。帰港後に「放射能検査」を受けたにもかかわらず、その結果も知らされず、「なんでこんな病気で」と疑いながら亡くなっていったのです。日米両政府は漁船員の被爆の事実を知りながら、60年間隠し続けたのです。

当時アメリカはソ連と熾烈な核開発競争に凌ぎを削っていましたが、ソ連優位に焦ったアメリカは、「核開発に邪魔なものとして漁船員の放射能被爆を握り潰してしまっただけ」でした(米エネルギー省元上級政策顧問ロバート・アルバート氏の証言)。

国の「被爆隠し」証明

それから60年経った今、広島で放射能被爆の調査・解明に取り組んできた科学者たちがビキニ被爆の実態を明らかにしました。

漁船員の歯(エナメル質)や血液(染色体異常)から、広島の爆心地から1.3km地点で被爆した被爆者と同じ数値が検出されたのです。

広島の被爆者は被爆者手帳を交付され、治療が受けられます。同じ被爆者なのに、ビキニ被爆者は検査結果も知らされず、苦しみながら死亡したのです。もし国が被爆(身体検査の放射能数値)を認めていれば、治療・補償等が確立していたはずですが。

第2 幸成丸の漁船員だった久保尚さんは、幼い子どもを残して40歳で死亡した親友の墓前で「良一、長い月日がかかったが、やっと本当のことがわかったよ。安らかに眠ってください」と手を合わせました。

秘密保護は戦争の先触れ

安倍政権は昨年、「国家安全保障局」を設置し、「秘密保護法」を国民に内容を説明せぬまま、国会を通過させました。また、数人の閣僚で憲法解釈を変更して自衛隊の海外派兵に道を開く「集団的自衛権行使」を容認するという暴挙を行ないました。「憲法改正は国民の理解を得られない」と判断したのでしょいか。「憲法改正」より国内法を変えてアメリカと一緒に海外で戦争できる企みを強引に推し進めています。「戦争法案」と共に、財界は「産業の軍事化」に乗り出し、防衛省も組織替えまで行なっています。日本の平和と憲法、そして国民の安全は、大変な危機に直面しています。「9条の会」の総力をあげて、周囲の仲間たちに訴える活動が重要になっているのです。

参加できないなかで

関間 高島信夫

以前はよく「九条の会さかど」の集まりにも参加しておりましたが、最近ではリュウマチの悪化に加えて、心筋梗塞で3回ばかり入院を繰り返し、2回手術してペースメーカーを入れ替える羽目になりました。

歩行がしにくくなり、視力も聴力も低下しと、介護なしでは外出できなくなったため、このごろは集りにも参加できなくなりました。皆さんにお会いする機会がなくなってしまったことを残念に思っています。

でも、「九条の会さかど」のニュースは、会から届け

られるメールで見ており、皆さんが戦争で経験されたお話などを読んで、反戦平和への思いを強くしております。会報から、「九条の会さかど」の皆さんの「二度と戦争を繰り返さない」という思いが伝わってきます。

会報の中で特に興味を持ったのは、「坂戸の戦跡めぐり」です。私の兄は、陸軍の輸送機に乗っておりました。兄は既に他界していますが、坂戸の飛行場について知っていることがあれば聞いておきたかったと思います。

そういった思いもあって20年頃前に沖縄に行き、「ひめゆりの塔」などの沖縄の戦跡をめぐってきました。どうして沖縄に行きたかったかという、当時できたばかりの「平和の礎」の中に義理の従兄弟の名前があるかどうかを確かめたかったからです。

「平和の礎」は、設備がよく整っていました。礎に刻まれた氏名が検索ができる機器が設置された小屋があって、その端末に名前を入力すると、「平和の礎」のどこに名前が刻まれているのか、あるいは、沖縄戦の当時の状況や、どういった戦況の中で亡くなったかがわかるようになっておりました。その端末でプリントした資料を、従兄弟の家に届けました。

現在の安倍政権の「安全保障法制」を推進しようとしている姿勢等に鑑みて、いま感じていることも申し上げます。

安倍首相の祖父に当たる岸信介元首相の意思を、安倍首相が受け継ごうとしていることがよくわかります。アメリカの「対中国」「対ロシア」の兵站化を日本が務めようとしていることが感じられます。

現在、世界経済が行き詰まりに近い状況になっていること、それに伴って、いよいよ国内経済自体も非常に難しい状況になっていると私は考えています。日銀が貨幣の増刷を幾らやっても、うまくいかない感があります。

国内経済を立て直すためには、軍事産業化を図らなければならないと考えているのではないのでしょうか。かつての戦時経済のように、兵器産業を興すことによって国内経済を立て直そうとしているのではないのでしょうか。

そのひとつとして、正規労働と不正規労働の差別化を図ることによって、国内経済を立て直そうとしているのではないのでしょうか。

この兵器産業を興すにあたっては、正規労働と非正規労働の差別化をいっそう助長することで推し進めようとしているとしか考えられません。そういった意味でも、どうしても安倍「安全保障法制」は打破しなければならないと考えます。

「9条の会」のことも考えています。若い人たちが参加してくれるのが望ましいのですが、どうすれば若い人たちが参加してくれるのでしょうか。

坂戸市内には、色々な団体や組織があります。「九条の会さかど」も、個人の参加だけではなく、色々な団体や組織からも参加する会だったら若い人たちの参加はどう変わるだろうか…と、会のニュースを読みながら思っています。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

8月27日(木)10時~12時、9月24日(木)10時~12時

北坂戸出張所内「坂戸市民活動交流フロア」会議室(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)